

世界で初めて内部被曝を告発，初来日

インゲ・シュミッツ・フォイエルハーケ女史



欧州放射線リスク委員会委員長の医学研究者で物理学者。「非核の未来賞」を受賞。30年前の1983年、広島の実験被曝のデータを基にして、いま大きな問題になっている内部被曝の真実を明らかにした。喜寿の年をおしての初来日。福島、広島、東京の講演・懇談会に加えて、また京大原子炉実験所を訪問。女史の日本へのメッセージが待たれる。

放射線に立ち向かうドイツ専門家の講演・懇談会

フクシマ，ヒロシマ，ドイツを考える

チェルノブイリとドイツとフクシマを考える

セバスチャン・プフルークバイル博士



ドイツ放射線防護協会会長で医療分野の物理学者。チェルノブイリ事故による欧州の数多くの被曝データと福島原発事故を低線量被曝として論証を進めている。たびたび訪日して日本へメッセージを精力的に届けてきている。1946年生まれ。同じ敗戦国ながら東電の原発事故を契機に脱原発に踏み切ったドイツから学ぶものは多い。

インゲ、セバスチアン講演

どなたもご参加ください

日時：2012年6月26日（火）午後6時～9時 開場30分前

会場：広島市まちづくり市民交流プラザ 北棟 6F

広島市中区袋町9-36 TEL(082)545-3911 入場無料 資料代 ¥1,000

司会：守田 敏也（ジャーナリスト、市民と科学者内部被曝問題研究会常任理事）

コメンテーター：沢田昭二（名古屋大学名誉教授、市民と科学者内部被曝問題研究会理事長）

通訳：選定中

共催：科研費基盤研究(C)「冷戦初期における米国核政策と被爆者・ヒバクシャ情報」

研究代表者 高橋博子 連絡先：広島市立大学広島平和研究所講師 高橋博子

hiroko-t@peace.hiroshima-cu.ac.jp

低線量被曝や原発と疾病、フクシマとチェルノブイリ、また脱原発のドイツなどを縦横に

他の講演等の予定

6月28日京都講演：午後2時～5時（開場午後1時半）

キャンパスプラザ京都 2F

6月29日「インゲ、セバスチアンと語ろう」

午後6時～9時 開場30分前

東京文京区民センター



主催：市民と科学者の内部被曝問題研究会

Association for Citizens and Scientists Concerned about Internal Radiation Exposure (ACSIR)

<http://www.acsir.org/>